

団体名 糸満市立高嶺中学校	連絡先 TEL : 098-994-2045 E-Mail : takacyu@takaminec.city.itoman.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項②

タイトル：「糸満市学力向上主要施策に係る取組」

2 実践内容

【資料1】

支持的風土のある学級・学校づくり 高嶺中学校

(1) 取組

- ① 人権教育・道徳教育を徹底し、「人権」の意識を高め、自己有用感を育み、他者を尊重し大切にする生徒の育成に努めている。また、毎月「人権目標」や「人権を考える日」を設定し、生徒の人権意識の高揚を図っている。
- ② 支持的風土のある安心・安全な学校づくり、凡事徹底（「高中3つの誇り」、人の話を聴く力の育成）、キャリア教育の充実により豊かな人間関係を構築できる生徒の育成を図っている。
- ③ 校内研修において生徒相互、教師と生徒の人間関係づくり等について研修を深め、支持的風土のある学級・学校づくりに努めている。
- ④ i-checkを2回実施している。1回目は生徒や学級の状況を把握し、個に応じた指導および学級経営に活かし、2回目は指導の効果を検証し、更なる指導の工夫・改善に努めている。
- ⑤ 特別活動を通して互いに協力して活動することの素晴らしさを理解させる取組を行っている。
- ⑥ 生徒会活動・部活動等の自主活動を充実を図っている。

生徒による学校評価（肯定的な評価をした割合）※抜粋			保護者による学校評価（肯定的な評価をした割合）※抜粋		
1	学校には仲の良い友達がいる	95%	1	子どもは楽しく学校に登校している	91%
2	他の生徒に対し思いやりをもって接している	88%	2	学校は自他の生命を大切にすることを育てている	95%
3	学級では気軽に発言できる	85%	3	先生方は子どもの頑張りや良いところを評価している	95%
4	みんなで支え助け合える学級である	88%	4	学校は社会のルールやマナーを守る態度を育てている	92%
5	先生は親身に悩みや相談に応じてくれる	87%	5	学校は子どものことについて気軽に相談できる	85%
6	先生は質問に丁寧に答えてくれる	91%	6	学校は進路について適切な指導を行っている	89%
7	先生は間違った行動をしたときちゃんと指導してくれる	93%	7	先生方は子どもの間違った行動をきちんと指導してくれる	91%
8	先生は常に生徒の安全を第一に考えてくれる	94%	8	学校は安心・安全な学校づくりに取り組んでいる	94%

(2) 今年度の成果と課題

- ① 教育活動全体を通して「人権教育」を推進し、人権意識を高め、自己有用感を育み他者を思いやる心など、心豊かな生徒の育成に努めた。
- ② 支持的風土のある安心・安全な学校づくり、凡事徹底（「高中3つの誇り」、人の話を聴く力の育成）、キャリア教育の充実により豊かな人間関係を構築できる生徒の育成を図った。
- ③ 校内研修において生徒相互および教師と生徒の人間関係づくり等について研修を深め、支持的風土のある学級・学校づくりに努めた。
- ④ i-checkを2回実施した。1回目は生徒一人ひとりの状態や学級の状況を把握し、個に応じた指導および学級経営に活かした。2回目は指導の効果を検証し、更なる指導の工夫・改善に努めた。
- ⑤ 特別活動の充実および、生徒会活動・部活動等の活性化を図り、互いに認め合う関係づくりや生徒の個性の伸長および自主・創造性を育成した。

【資料2】

子ども主体の学び合い高めあう授業づくり 高嶺中学校

(1) 現状

令和4年度は、支持的風土づくりに努めると共に、高嶺小中学校の共通実践事項である『南山ベーシック』を推進してきたが、その実現は不十分であった。そこで今年度は【学習規律の確立】のために①始業2分前に入室、②始業1分前には学習用具を揃えて着席、③チャイムと同時に黙想、の3点をすべての授業で実践できるように各教室の黒板左上という定位置に掲示をして意識化を図った。

また、『未来ノート』を導入して3年目となりキャリア教育の力が少しずつ高まっていると考えられるが、「見通す力」や「ふり返る力」などは不足している状況があり、改善が必要である。

(2) 今年度の成果と課題

- ① 『南山ベーシック』（高嶺小中学校共通実践事項）の実践による学習規律の定着
 - ア 授業開始の1分前に着席、チャイムと同時に黙想
 - イ 聴く姿勢、集会や授業時の号令

- ② 『高嶺中学校 授業スタイル』の実践による授業改善とキャリア形成
 - ア 授業のスタイル（めあて→自己内対話→他者との対話→自己内対話→まとめ・ふりかえり）
 - イ 授業で身に付けたい「4つの力」によるキャリア形成
 - ・見通す力 ・関わる力 ・やり抜く力 ・ふり返る力

- ③ 『未来ノート』の活用で自立した学習者の育成
 - ア 『未来ノート』を書く時間を設けた。（ゴールデンタイム・帰りの会の前）
 - イ 学習の計画と振り返りの充実を図った。（PDCAサイクルの実践）
 - ウ 時間を有効に活用するための自己管理能力の育成を図った。（定期テストの前後、生徒会活動、学級活動、部活動など様々な場面での活用）
 - エ 学習掲示委員会の取り組みとして、『未来ノート』表紙コンテスト等を実施し、賞賛と表彰を行った。
 - オ 『未来ノート』の表紙は美術科とのコラボレーションで取り組んだ。

- ④ 充実した家庭学習の推進
 - ア 教科担任の積極的な手立てによる自学自習の奨励を行った。
 - イ 教科の特性に応じてタブレットドリルの活用を促した。

- ⑤ 小中連携事業において、お互いの授業を公開・参観するとともに、情報交換を含めた研究協議会を実施した。

- ⑥ 9月～10月にかけて、全職員が1人1公開授業の実施を行った。

(3) 今年度のようす



▲各教室の黒板左上に共通掲示し、学習規律の定着を図った



他者との対話による「高嶺中授業スタイル」の実践のようす (理科の実験)



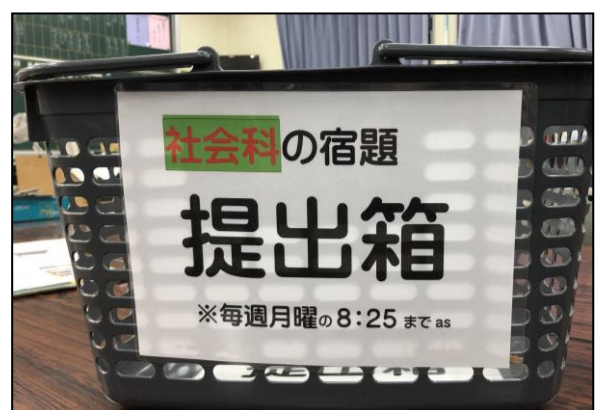
▲学習掲示委員会による『未来ノート』表紙コンテストの説明集会のようす



▲小中連携事業 (中学校会場 7月) 小中の全職員による全体会のようす



▲1人1公開授業 (技術) 導入で「見通す力」の育成を図る



▲教科担任の積極的な手立てによる自学自習の奨励を行った

(1) 現状

平成24年よりコミュニティ・スクールの指定を受け、学校・家庭・地域社会が相互に連携した教育活動の充実を図ってきた。

- ① 地域の方々を講師に招いての講演会を実施（環境教育出前講座，職業人講話）
- ② P T A親子作業による校内美化の充実
- ③ 教育課程特例校として開設した『海人科』の取り組みのひとつとして，市の市民生活環境課が主催する530（ごみゼロ）運動への参加
- ④ 総合的な学習の時間における地域人材を活用したPBL（課題解決型学習）の実施
- ⑤ 総合的な学習の時間における課題の解決に向けたワークショップ等への人材活用
- ⑥ 『南山人材育成会』の運用に向けた話し合いの実施

(2) 今年度の成果と課題

昨年度はコロナ過で中止していた活動が今年度は実施可能となり，地域と連携し，ともに生徒を育てる学校づくりを目指した。

- ① 本校P T A，地域教育コーディネーター，各自治会長，老人会等と連携して，学校支援ボランティアを依頼し，可能な範囲で地域の協力を得ながら様々な教育活動を活性化した
- ② 保護者参加によるP T A作業と校内整備活動を実施した
- ③ 大里自治会長を学校に招き、大里区の良さと課題についての講話を実施した
- ④ 地域の方々による読書支援活動（読み聞かせ）を実施した
- ⑤ 総合的な学習の時間における地域の方々による講話や体験活動等の学習支援を行った
- ⑥ 学校公開日を設定し，保護者・地域の方々に生徒の学習活動の様子を参観してもらい，学校の教育活動への理解を深めるとともに，より一層の連携強化に努めた
- ⑦ 高嶺地区児童生徒の学力向上と人材育成を目的とした「南山人材育成会」（令和2年3月設立）の周知・運用をした
- ⑧ コミュニティスクールとして学校運営協議会を中心とした学校課題への取り組みを行った